

— 緊張感の中でも心のこもった看護を実践 —

急性期医療を担う看護師たち

急性期医療に力を入れている市立病院。病状が不安定で入院生活に不安を抱える患者さんやそのご家族に一番近い存在である看護師は、処置や手術などができるだけ苦痛がなくスムーズに行えるよう患者さんをサポートしています。市立病院でどのような看護を行っているか伺いました。

「ご家族にも寄り添った看護を」

ICU・CCU 持永麻衣さん

緊張感のあるICU

ICUでは、心肺停止や出血性ショックの方など重症度の高い患者さんや手術直後の患者さんの看護を行っています。モニターなどの医療機器に囲まれ、人工呼吸器を装着した方、一人では動けない方、挿管されて話すことができない方などが入院



され、それだけ患者さんの状態管理が重要で緊張感のある部署と言えます。

ICUに配属され3年目の持永麻衣さん。「入院されている患者さんほどが辛いのか訴えることができない場合が多いため、呼吸、血圧、脈拍などのバイタルサインだけでなく、患者さんの表情や顔色をよく観察しています。反応によって次に行うケアが変わってくるため、意識がない場合であっても励ますように患者さんに声をかけています」とわずかな身体変化を見逃さないよう患者さんと向き合っています。

ご家族への看護も

このように患者さんと対面するのは看護師などの医療スタッフだけではありません。患者さん

のご家族も同様で、入室当初は病状を受け入れられないことが多くあります。

「医師からの説明もその場では理解したと思っても、事態の深刻さであまりよく理解できていなかったということもあります。その場合に私たちが改めてゆっくりお話しをすることで、徐々に現状を受け入れ、病状を理解していただくよう努めています。特に言葉遣いには気を配ります」と患者さんのご家族への看護も大切にしています。

コミュニケーションを大切に

患者さんへの集中的な処置が終わると他の病棟へ移ったり退院されたりするため、ICUでの入院期間はおおよそ2〜5日程度と短期間。

「患者さんやご家族と関わる時間はとても短いものです。その時間の中で一番近くで支え、励ますことで信頼関係を築いていかなければなりません。そのためにもコミュニケーションを



大切にし、患者さんの痛みや不安、そしてご家族の思いを常に考えられる看護師でいたいですね」と話していました。

良き仲間にもまれて

7階東病棟 小林大輔さん

先輩看護師からのサポート

7階東病棟で働く小林大輔さん。循環器科、内科などの患者さんを担当しています。

「入職当初は看護技術や知識、患者さんの接し方などを指導するプリセプターと呼ばれる先輩看護師がマンツーマンで指導してくださるのですが、プリセプターが忙しくて離れたときでもほかの先輩看護師が私に常に声をかけてくれるので、不安



なく安心して仕事に取り組むことができました。研修や職場に入った後のフォローが充実しているところは市立病院の良さですね」と新人だった頃を振り返ります。最近ではチームで行う看護の

充実した看護師教育

— 新人看護師に手厚いサポート —

市立病院では看護師研修に力を入れています。高度化・複雑化した医療現場で第一歩を踏み出す新人看護師がそれぞれの能力を十分に発揮できるよう、プロジェクトチームを組み看護教育を行っています。感染予防、食事援助、与薬、救急看護などの実技や講義に加え、各部署でのマンツーマンによる指導により理解を深められるよう支援しています。常に質の高い看護を提供できるように新人研修後も段階に応じた教育を継続的に行っています。

